

講義名	経営情報論				授業形態	
担当教員	赤川 元昭	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限			
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
前年度までは、教科書を用いたオンデマンド型講義だったが、今年度は、従来の対面講義形式で行なうので、注意すること！ コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけるとともに、情報技術が企業経営にどのように役立っているのかを理解することを目的とする。 なお、当講義は「経営情報システム論（前期開講）」と一対をなす科目であり、情報技術に関する基本的な知識については、主に経営情報システム論で詳しく解説する。このため、情報技術について、まったくの理解不足だと自覚する学生は、あらかじめ、私が担当している「経営情報システム論（前期開講）」を履修することが望ましい。						
到達目標						
・情報化時代を生きる社会人として、最低限必要な情報技術に関する知識を身につける（たとえば、ごく基礎的な情報技術用語を説明することができる）。 ・企業の事例を通じて、情報技術が企業活動のどのような局面で利用され、どのように役立っているのかを具体的に述べるができる						
提出課題						
小テストやアンケート等を実施する場合がある。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
小テストについては、講義期間中にその解答の解説を行う。アンケートについては、特にフィードバックは行わない。						
評価の基準						
・定期試験の成績を中心に、小テストやアンケートを加味して、総合的に評価する。 ・ここ数年では、合格者の割合は80％程度、平均点は約70点である。						
履修にあたっての注意・助言他						
ごく当たり前のことだが、他の受講生に迷惑をかけるような行為（私語など）は慎むこと。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
さらに勉強したい人のための文献 「経営情報システム(第4版)」 宮川公男 中央経済社 「朽木先生のITパスポート教室 令和05年.」 朽木厚 技術評論社		
授業計画		
1 はじめに：この講義の概要 2 インターネット 3 インターネットの仕組み 4 情報技術とマーケティング活動に対する影響 5 ワンツウワンマーケティング 6 ロングテイル他 7 ターゲット広告 8 人工知能 9 組織活動と情報 10 経営情報システム 11 意思決定支援システム 12 戦略的情報システム 13 システムの計画と設計 14 戦略策定プロセス 15 事例研究		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
本講義は、情報技術と経営の関連性について、学生に関心を持ってもらうことを主眼にしており、特に予習は必要ないが、復習は非常に重要である。興味を持った話題があれば、各自、自主的にその話題について勉強することをおすすめする。その際には、上掲した「さらに勉強したい人のための文献」を参照することが効果的である。たとえば、「朽木先生のITパスポート教室」をはじめ、ITパスポート試験の教本には、通常、解説のみならず、練習問題も多数掲載されており、これらを解答することによって、さらに理解が深まることだろう。この場合、1回の講義に関する復習には最低でも4時間程度かかると思われる。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
本科目の到達目標を達成することは、本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）における「卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」および「基礎能力」の中で、情報収集力、情報分析力の項目に寄与するものと思われる。また、商学部が身に付けるべき資質・能力である「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」の修得にも役立つはずである。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
大手国産コンピュータメーカーのSE（システムエンジニア）、研究員としての実務経験あり。		
備考		